

# 研修参加報告書

令和 2 年 1 月 22 日

会 派 名 令 政 会

会派代表者：尾関昭

(参加者：尾関昭、中野裕二)

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年月日	令和 2 年 1 月 9、10 日 (木、金)
研修時間	9 日 13 : 00 ~ 17 : 30 10 日 9 : 00 ~ 14 : 45
研修場所	全国市町村国際文化研修所 (JIAM)
研修内容	防災と議員の役割 (講師：首都大学東京 中林一樹氏 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 鍵谷一氏 熊本市議会議員 村上博氏)

# 研修参加報告書

年月日	令和 2 年 1 月 9、10 日（木、金）
研修時間	9 日 13 : 00 ~ 17 : 30 10 日 9 : 00 ~ 14 : 45
研修場所	全国市町村国際文化研修所（JIAM）
研修内容	防災と議員の役割 （講師：首都大学東京 中林一樹氏 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 鍵谷一氏 熊本市議会議員村上博氏）
<b>■目的</b> 災害を経験した講師からの講義を受け、江南市もいつ災害を経験するか分からないので、危機意識を持ち防災対策を講じるため	
<b>■内容</b> 9 日 13 : 00 ~ 14 : 30 地域防災力を向上させるため【講義】 首都大学東京 中林一樹氏 ・近年の地域社会の脆弱化に伴う被害状況 ・近年の災害状況と複合化、広域化について説明（地震発生後に水害、台風被害等） ・高齢化社会における巨大災害時の支援体制 いわゆる災害弱者の現状と支援体制、その中から浮かび上がる災害関連死の状況 ・二つの危機管理と地域防災力（発生するリスク管理と発生後の危機対応） ・災害対応として、事前に対応できる風水害などは行政として【空振りには命を救うが見逃しは死を招くので空振りを恐れては命を救えない】 予知災害の備え 3 ヶ条 ① 気象情報、水位情報、避難情報を信じる ② 避難するなら早めに限る ③ 近所に声かけして避難所で楽しむ ・発生した震災に対しての関連死を防ぐ住まい、ライフラインの確保 ・超高齢化社会の備えとして、支援者が減少し、要支援者が増加する超高齢化社会だからこそ平時の自助、共助の仕組みを構築しておく！ ・地方議員に最も期待する防災の取り組み 10 ヶ条 ① 公人である前に住民として、防災達人になれ ② 災害時の活動は、平時以下でも、平時以上でもない ③ 学校防災の強化にもっと目を向け、地域を支える人材育成 ④ 地域防災計画、災害活動マニュアル、BCP を十分理解する	

- ⑤ 事前防災も発災対応も、住民目線、女性目線を忘れない
- ⑥ 発災7日間は、地域住民として地域で活動する
- ⑦ 議員としての活動は議会として会派連携が基本
- ⑧ 被災後の対応は公平、公正、平等が原則
- ⑨ 職員も被災しているので、行政を支援し、住民を支援する
- ⑩ 復旧、復興計画策定からは、復興後の地域の維持管理を念頭に、執行部に対するチェック機能を果たす。

14：45～15：55 平時の防災と議員の役割【講義】

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 鍵屋一氏

- ・ 東日本大震災 死者の教訓  
体力がなく、地域との繋がりが弱い高齢者が約6割、障害者死亡率は2倍
  - ・ なぜ、地域防災計画支援に取り組まなければいけないのか  
\* 準備をしておけば助かる命がある。
  - ・ 安政大津波の碑（写真あり）  
板に墨で津波の事を記載してあるため、毎年、8月に洗い地域が津波の事を風化させないように供養を含め再度、文字を記す。
  - ・ 脆弱な基礎自治体の防災体制と実効性を欠く地域防災計画  
地域防災計画の実効性不足で縦割り行政の目標統合がされておらず、災害時には実務の基準とならず、ほとんど役には立たない。
  - ・ 熊本地震からの提言
- ① 障害のある子どもと家族のニーズに特化した福祉避難所、福祉スペースの確保
  - ② 福祉避難所等での合理的配慮と人材育成とマニュアル作成
  - ③ 伝わりやすく分かりやすい情報伝達と相談窓口の整備
  - ④ 災害関連死をなくすために支え合いセンターの早期、設置を

16：10～17：30 平時の防災と議員の役割【演習】

鍵谷一氏と湯井恵美子氏

- ・ 各班に分かれグループ討議

10日9：00～10：10 災害弱者への対応 熊本地震における経験より【事例紹介】

熊本市議会議員 村上博氏

- ・ 熊本地震後の避難所のあり方  
多くの方が避難所に入れず、あふれた人は怖くて家屋には入れず車中泊を余儀なくされた。（車中泊を余儀なくされた方が関連死にあった）
- ・ 8年前の避難所の問題点  
災害弱者と言われる障害者は一般の避難所では、バリアフリー化、トイレの環境もなく、避難出来ない。当時、行政に問題を指摘したが、回答は特養等の福祉避難所があるとの回答。定員を超える避難者がいて、全ての方が避難出来なかった。そうした方は仕方なく、自宅避難した。
- ・ 生活再建の仮設住宅の問題点

① 入り口にバリアフリーのスロープがあるだけで、一般の仮設住宅と変わらない。

② 玄関が狭くて車椅子では入れない。

③ お風呂も狭くて入れない、洗面台も一般使用で足が当たって使えず。トイレも同様に狭い。

・本会議場も震災で照明が落下したり、議長席の後部の壁が倒れたり相当な被害を受けた。あれが、本会議中ならどれくらいの被害があったのか容易に想像出来る。対応すべき

10：25～13：35 災害時・復旧・復興期の議員の役割【講義・演習】

鍵谷一氏と湯井恵美子氏

各班に分かれてのグループ討議

#### ■所感

江南市で現実、災害が発生したらどの程度、危機対応が出来るのか、災害弱者の対応が出来るのか、一つずつ見直すと相当の混乱を起こすことは間違いない。災害は対岸の火事ではなく、いつどこで誰に起るか分からない。この研修を受けて再度、江南市の災害対応、復旧、復興の対策を平時に考えておく必要があると強く感じた。